

# 文学部学科課程履修要項

〈2010年度以降入学生に適用〉

## 授業科目の履修要項

### 1 卒業の要件

本学では学生が卒業の認定を受けるためには、下記の条件を満たす必要がある。

#### (1) 所定単位の修得

##### 英語文化学科

英語文化学科の学生は、共通科目必修4単位、外国語科目の中から選択必修8単位以上、英語文化学科専門科目の中から必修26単位、選択必修24単位を含む50単位以上、他学科科目の中から選択必修4単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。

授業科目 区分	共通科目	外国語科目	英語文化学科専門科目	日本語・日本文 学科専門科目	文化総合学 科専門科目
必修単位	4単位		26単位		
選択必修単位		* 8単位 以上	24単位以上 (文学系、総合研究系を専攻する場合、これに6単位が加わる。) (英語学系、コミュニケーション系を専攻する場合、これに4単位が加わる。)	* 4単位以上	
選 択 単 位					
自由選択単位			58単位以上		
卒 業 必 要 単 位 数 合 計			124単位以上		

\*ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語のうち1外国語8単位以上選択必修。

\*他学科からの選択必修4単位はクラスター基礎科目で充当すること。

\*教職に関する科目は、指定された科目のうち8単位まで自由選択単位として算入できる。

\*他学部科目（共通、学科専門）は、12単位まで自由選択単位として算入できる。

\*協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、12単位まで自由選択単位として算入できる。

##### 日本語・日本文学科

日本語・日本文学科の学生は、共通科目必修4単位、外国語科目の中から選択必修8単位以上、日本語・日本文学科専門科目の中から必修8単位、選択必修18単位、選択20単位（書道Ⅰ～Ⅳを除く）を含む46単位以上、他学科科目の中から選択必修4単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。

授業科目 区分	共通科目	外国語科目	日本語・日本文 学科専門科目	英語文化学 科専門科目	文化総合学 科専門科目
必修単位	4単位		8単位		
選択必修単位		* 8単位以上	18単位以上	* 4単位以上	
選 択 単 位			20単位以上		
自由選択単位			62単位以上		
卒 業 必 要 単 位 数 合 計			124単位以上		

\*英語、ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語のうち1外国語8単位以上、または英語、ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語の中から2外国語各4単位、合計8単位以上選択必修。

\*外国語（英語）の場合は、英語文化学科「学科基礎科目」、「講読科目」で充当可。

\*他学科からの選択必修4単位はクラスター基礎科目で充当すること。

\*教職に関する科目は、指定された科目のうち8単位まで自由選択単位として算入できる。

\*他学部科目（共通、学科専門）及び協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、合せて12単位まで自由選択単位として算入できる。

文化総合学科

文化総合学科の学生は、共通科目必修4単位、外国語科目の中から選択必修8単位以上、文化総合学科専門科目の中から必修8単位、選択必修28単位を含む36単位以上、他学科科目の中から選択必修4単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。

授業科目 区分	共通科目	外国語科目	文化総合学 科専門科目	英語文化学 科専門科目	日本語・日本文 学科専門科目
必修単位	4単位		8単位		
選択必修単位		* 8単位以上	28単位以上	* 4単位以上	
選択単位					
自由選択単位	72単位以上				
卒業必要 単位数合計	124単位以上				

- \* 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語のうち1外国語8単位以上選択必修。
- \* 外国語（英語）の場合は、英語文化学科「学科基礎科目」、「講読科目」で充当可。
- \* 他学科からの選択必修4単位はクラスター基礎科目で充当すること。
- \* 教職に関する科目は、指定された科目のうち8単位まで自由選択単位として算入できる。
- \* 他学部科目（共通、学科専門）は、12単位まで自由選択単位として算入できる。
- \* 協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、12単位まで自由選択単位として算入できる。

(2) 修業年限

4年以上在学すること。ただし8年を超えてはならない（休学期間は在学年数には含まれない）。

2 授業科目及び履修方法

文学部の授業科目は、共通科目、外国語科目、学科専門科目及び教職に関する科目に区分されている。

(1) 共通科目は、「キリスト教学」2単位と「聖書学」2単位の2科目であり、ともに必修科目である。

(2) 外国語科目

英語文化学科

ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語のうち1外国語8単位以上を修得しなければならない。

日本語・日本文学科

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語のうち1外国語8単位以上、または2外国語各4単位以上、合計8単位以上を修得しなければならない。尚、英語の場合は、英語文化学科「学科基礎科目」、「講読科目」で充当可。

文化総合学科

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語のうち1外国語8単位以上を修得しなければならない。尚、英語の場合は、英語文化学科「学科基礎科目」、「講読科目」で充当可。

各学科とも、外国語を8単位以上修得した場合には、卒業要件の自由選択単位として算入される。

(3) 学科専門科目

a. 所属学科の学科専門科目は、各学科の「教育課程表」及び履修ガイドにしたがって定められた単位を修得しなければならない。

b. 共通科目の「テーマ研究」は、文学部の複数の教員が協力しあって共同開講する科目である。開講対象学年は、1年、2年、3年、4年である。

#### (4) 他学科専門科目

- a. 他学科の専門科目を履修し単位を修得した場合は、自由選択単位として卒業要件に含めることができる。
- b. 他学科専門科目として履修できる学科専門科目については、各学科の「教育課程表」を参照すること。

#### (5) 他学部専門科目

人間生活学部の共通科目、学科専門科目を履修し単位を修得した場合は、12 単位まで自由選択単位として卒業要件に算入できる。

履修についての詳細は、人間生活学部の教育課程表及び履修ガイドを教務課で閲覧、確認すること。

#### (6) 教職に関する科目

- a. 教職に関する科目は、教育職員免許状取得のために開設している科目であるが、指定された科目の内 8 単位まで、卒業要件の自由選択単位に含むことができる。詳しくは、p.87 の教育課程表を確認すること。
- b. 教育職員免許状の資格取得を希望する場合は、教職課程履修要項に従って免許状取得に必要な単位を履修しなければならない。

### 3 学 期

学期は前期（4月～9月）と後期（9月～3月）の2学期とし、各学期は、15 週を原則とする。

### 4 授 業 時 間

授業は次の時間割によって行われる。

講 時	時 間	時 限	時 間
I	9：00～10：30	1	9：00～ 9：45
		2	9：45～10：30
II	10：40～12：10	3	10：40～11：25
		4	11：25～12：10
III	13：00～14：30	5	13：00～13：45
		6	13：45～14：30
IV	14：40～16：10	7	14：40～15：25
		8	15：25～16：10
V	16：20～17：50	9	16：20～17：05
		10	17：05～17：50

### 5 単 位

各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。

- (1) 講義及び演習については、15 時間から 30 時間の授業をもって 1 単位とし、科目によってその基準は異なる。
- (2) 実験、実習、実技については、30 時間から 45 時間の授業をもって 1 単位とし、科目によってその基準は異なる。
- (3) 卒業論文及び卒業研究の授業科目については、学修の成果を評価し所定の単位を授与する。

### 6 単位修得の要件

- (1) 所定の履修登録を完了すること。
- (2) 欠席時（回）数が総授業時（回）数の 1/3 を超えていないこと。
- (3) 試験またはレポート等による成績が合格点（60 点以上）であること。

## 7 既修得単位の認定

- (1) 既修得単位の認定の申請ができる者は、本学または他の大学を卒業または中途退学し、新たに1年目に入学者に限られる。
- (2) 本学が教育上有益と認めるときは、学則第19条の4第1項及び第2項の定めるところにより、既に修得した単位について、60単位を超えない範囲で本学において修得した単位として認定することができる。
- (3) 既修得単位の認定を受けようとする者は、所定の申請書に卒業証明書および成績証明書を添えて、新年度の履修登録期限前に申請することができる。教職課程の科目について既修得単位の認定を受けようとする者は、さらに単位修得証明書も添えること。

## 8 履修登録

入学年度の教育課程表および履修ガイドを参考に卒業までの履修計画をたて、その年度に履修するすべての授業科目について、履修登録をし、科目の登録をしなければならない。

### (1) 履修登録についての注意事項

- ① 教育課程表により配当されている所定年次（学科・クラス指定のある科目は指定クラス）の授業科目を履修しなければならない。
- ② 履修登録した科目でなければ履修することはできない。
- ③ すでに単位を修得・認定された授業科目の履修登録は認められない。
- ④ 同一時限に2科目以上の履修登録は認められない。

### (2) 履修登録単位数の上限

履修登録をした授業科目の履修にあたっては、単位修得において最善の努力をしなければなりません。

自学自習の時間を考慮し、卒業要件を年次配分し無理なく履修計画を立てた場合、年間40単位前後の履修で、3年次までに卒業要件の総単位数(124単位)を修得することが出来ますが、再履修等を考慮し年間登録単位数の上限を下記のとおり定めています。無計画な履修登録をし、過重負担にならないよう心がけてください。

履修上限単位

	英語文化学科	日本語・日本文学科	文化総合学科
1年次	44	48	48
2年次	48	48	48
3年次	48	48	48
4年次	48	48	48

※文学部各学科の上記の上限単位の中に、教職課程科目、図書館情報学課程科目、日本語教員養成課程科目、短期語学研修科目を含まない。

### (3) 履修登録の期間

前期開講科目、通年開講科目及び集中講義については4月8日(金)～18日(月)の指定された期間に登録できる。

後期開講科目については9月12日(月)～16日(金)の指定された期間に登録できる。

## 9 試 験

定期試験 (1) 定期試験は、前期および後期の授業終了後、定められた期間に行う試験である。

(2) 定期試験は、平常の授業時間割と異なる時間割で行われる。

試験の時間割は、各定期試験開始の1週間前に掲示により発表されるので、掲示には十分注意

すること。

(3) 定期試験に代わる期間外実施試験、レポート・作品等の提出も定期試験に準ずる。

追 試 験 (1) 追試験は、病気その他やむを得ない理由で定期試験を欠席した者が、「定期試験欠席届(追試験願)」を提出して、それが認められた場合に行う試験である。

(2) 追試験を願い出る者は、定められた期日までに下記証明書等を添えて「定期試験欠席届(追試験願)」を教務課に提出しなければならない。

(3) 追試験の受験料は1科目500円とする。(ただし公認欠席、出席停止の場合は受験料を徴収しない)

(4) 追試験の受験資格

1. 就職試験	受験票写、受験先証明書
2. 公的交通機関の遅延	当該交通機関の発行する遅延証明書
3. 学校保健法施行規則第18条 第一種～第三種による学校感染症	医師の診断書
4. 不意の疾病	医師の診断書またはこれに準ずるもの
5. 交通事故	事故証明書
6. 学外実習	実習担当者の証明
7. その他やむを得ない理由	その事由を証明するもの

※ 上記の理由以外について追試験を認める場合があるが、当該試験に合格したときの成績は60点とする。

※ 前期追試験は9月、後期追試験は2月に日時を定めて行う。

#### 試験に関する注意事項

試験受験の際には学生証が必要です。学生証が無ければ試験は受験できません。

(期間外試験も同様です)

学生証を忘れた場合は仮受験票を発行しますので教務課へ来てください。

1. 受験にあたっては、監督者の指示に従うこと。
2. 遅刻者の入室は、試験開始後25分以内とする。
3. 試験場からの退場は、試験開始後30分以降とする。
4. 試験期間中は長机(3人掛け)の真ん中の席は使用しないこと。
5. 特別に持ち込みを許可されたもの以外は、机の上においてはならない。
6. 不正行為は絶対行なわないこと。不正行為を行った者は、
  1. 該当科目を不認定とする
  2. 学則による懲戒処分対象となり学籍原簿への記載がなされ永久に記録される。
  3. 処分内容は、保証人へも通知される。

## 10 成績

1. 成績の評価は次のとおりである。

### 評価基準

優	100～80	合格
良	79～70	
可	69～60	
不可	59～0	不合格
放棄	×	

- ※ 優・良・可を合格、不可を不合格とする。
- ※ 不可および放棄は、成績証明書には表記しない。
- ※ 定期試験（レポート提出）欠席者で追試験願の届け出がない者、欠席が1/3以上の者は放棄として扱う。
- ※ 2009年度以降に実施される短期語学研修の場合は、成績評価を行わず単位認定のみとする。

2. 履修科目の成績は、成績通知書を各自に交付し通知する。

### 成績通知書の交付

前期	9月12日(月)	全学年	教務課窓口
後期	3月3日(土)	全学年	

在学生の保証人（親・学費負担者）に前年度成績及び当年度履修科目を5月中旬に通知する。

## 11 進級に必要な単位数

2010年度入学生に適用

	文学部		
	英語文化学科	日本語日本文学科	文化総合学科
卒業必要単位	2年次終了までに1年次に開講されている学科基礎科目（必修）10単位を含み、30単位以上を取得しておかなければならない。	2年次終了までに56単位以上を取得しておかなければならない。 なお、講義Ⅰは日本語学分野から2単位以上、古典文学分野から2単位以上、近現代文学分野から2単位以上、計6単位以上を取得しておかなければならない。	2年次終了までに40単位以上を取得しておかなければならない。

※海外留学協定校に留学した（もしくは留学中の）学生には適用しない。

## 12 文学部クラスター履修要項

1. クラスター制の趣旨

文学部のオープン・カリキュラムを有効に運用するために、3学科を横断する形でクラスター制を設ける。クラスター制とは、文学部の授業科目をジャンル別に新たに編成し直し、クラスターとして複数の科目群に分け、卒業研究まで導くことを目的とするものである。

2. クラスター（科目群）の種類

クラスターには以下の6種類がある。科目の詳細については別に定める。

- ・日本文化研究Ⅰ（近世まで）
- ・日本文化研究Ⅱ（近現代）
- ・アジア研究（東アジア）
- ・言語コミュニケーション
- ・異文化研究Ⅰ（19世紀まで）
- ・異文化研究Ⅱ（20世紀以降）

### 3. クラスタ履修要件

以下の要件を充たして卒業する者にはクラスタ認定証を授与する。

- (1) 選択したクラスタから 20 単位、「卒業研究演習」または「卒業研究ゼミⅡ」 4 単位および卒業研究 4 単位を修得すること。
- (2) 上記 20 単位には、3 年次演習科目 4 単位（他学科開設演習の場合は「学科特殊演習」となる）、および他学科開設科目 4 単位を含めること。
- (3) 3 年次終了までに、選択する予定のクラスタから 12 単位以上修得することを卒業研究履修の条件とする。その条件を充たした者は、4 年次 4 月に、選択したクラスタの卒業研究の履修登録が認められる。

### 4. クラスタ卒業研究（論文）規程

クラスタ卒業研究（論文）規程については別に定める。

## 13 文学部英語エキスパートプログラムについて

### 英語エキスパートプログラムの趣旨

英語エキスパートプログラムは、英語を集中的に学習することで高度な英語力を身につけることを希望する学生を対象にしている。この「高度な英語力」とは、様々な場面に対応できる英語力、専門分野の勉強ができる英語力、さらには在学中あるいは卒業後に英語圏の大学や大学院に留学するのに必要な英語力のことを言う。

このプログラムはそのような英語力を養うことを目的とし、学科を問わず、広く文学部の学生に提供されるものである。

### 英語エキスパートの認定について

1 年次、または 2 年次の履修登録時に英語エキスパートプログラムに登録し、以下の要件を充たして卒業する者には英語エキスパート認定証を授与する。

1. 英語エキスパートプログラム基礎科目（計 16 単位）を必修科目として修得する。
2. 英語エキスパートプログラム発展科目 20 単位以上を選択必修科目として修得する。
3. 4 年次 2 月までに TOEFL（または TOEFL-ITP）で 520 点以上のスコアを取る。

\* 英語エキスパートプログラム登録以前に修得したプログラムの科目も、英語エキスパートプログラムの必修、選択必修科目として認められる。

〈2009年度以前入学生に適用〉

## 授業科目の履修要項

### 1 卒業の要件

本学では学生が卒業の認定を受けるためには、下記の条件を満たす必要がある。

#### (1) 所定単位の修得

##### 英語文化学科

英語文化学科の学生は、宗教科目必修 4 単位、外国語科目の中から選択必修 8 単位以上、英語文化学科専門科目の中から必修 20 単位、選択必修 28 単位を含む 48 単位以上、合計 124 単位以上を修得しなければならない。

科目区分	宗教科目	外国語科目	英語文化学科専門科目	日本語・日本文学 学科専門科目	文化総合学 科専門科目
必修単位	4 単位		20 単位		
選択必修単位		8 単位以上	28 単位以上 (文学系、総合研究系を専攻する場合は、 これに 6 単位が加わる。) (英語学系、コミュニケーション系を専 攻する場合は、これに 4 単位が加わる。)		
選択単位					
自由選択単位	64 単位以上				
合計単位数	124 単位以上				

- \*ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語のうち 1 外国語 8 単位以上選択必修。
- \*英語文化学科専門科目の選択必修単位修得については、教育課程表の備考欄に記載されている事項参照。
- \*教職に関する科目は、指定された科目のうち 8 単位まで自由選択単位として算入できる。
- \*他学部科目（共通、学科専門）は、12 単位まで自由選択単位として算入できる。（2004 年度以降入学生適用）
- \*協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、12 単位まで自由選択単位として算入できる。

##### 日本語・日本文学科

日本語・日本文学科の学生は、宗教科目必修 4 単位、外国語科目の中から選択必修 8 単位以上、日本語・日本文学科専門科目の中から必修 6 単位、選択必修 12 単位、選択 10 単位（書道Ⅰ～Ⅳを除く）を含む 28 単位以上、合計 124 単位以上を修得しなければならない。

科目区分	宗教科目	外国語科目	日本語・日本文学 学科専門科目	英語文化学 科専門科目	文化総合学 科専門科目
必修単位	4 単位		6 単位		
選択必修単位		8 単位以上	12 単位以上		
選択単位			10 単位以上		
自由選択単位	84 単位以上				
合計単位数	124 単位以上				

- \*英語、ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語のうち 1 外国語 8 単位以上、または英語、ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語の中から 2 外国語各 4 単位、合計 8 単位以上選択必修。
- \*日本語・日本文学科専門科目の選択必修単位修得については、教育課程表の備考欄に記載されている事項参照。
- \*教職に関する科目は、指定された科目のうち 8 単位まで自由選択単位として算入できる。
- \*他学部科目（共通、学科専門）及び協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、合せて 12 単位まで自由選択単位として算入できる。（ただし、他学部科目履修は 2004 年度以降入学生適用）

**文化総合学科**

文化総合学科の学生は、宗教科目必修4単位、外国語科目の中から選択必修8単位以上、文化総合学科専門科目の中から必修4単位、選択必修36単位を含む40単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。

科目区分	宗教科目	外国語科目	文化総合学科専門科目	英語文化学科専門科目	日本語・日本文学学科専門科目
必修単位	4単位		4単位		
選択必修単位		8単位以上	36単位以上		
選択単位					
自由選択単位	72単位以上				
合計単位数	124単位以上				

- \* 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語のうち1外国語8単位以上選択必修。
- \* 文化総合学科専門科目の選択必修単位修得については、教育課程表の注意に記載されている事項参照。
- \* 教職に関する科目は、指定された科目のうち8単位まで自由選択単位として算入できる。
- \* 他学部科目(共通、学科専門)は、12単位まで自由選択単位として算入できる。(2004年度以降入学生に適用)
- \* 協定校修得科目(本学教育課程表外の科目)は、12単位まで自由選択単位として算入できる。

(2) 修業年限

4年以上在学すること。ただし8年を超えてはならない(休学期間は在学年数には含まれない)。

2 授業科目及び履修方法

文学部の授業科目は、宗教科目、外国語科目、学科専門科目及び教職に関する科目に区分されている。

(1) 宗教科目は、「キリスト教学」2単位と「聖書学」2単位の2科目であり、ともに必修科目である。

(2) 外国語科目

**英語文化学科**

ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語のうち1外国語8単位以上を修得しなければならない。

**日本語・日本文学学科**

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語のうち1外国語8単位以上、または2外国語各4単位以上、合計8単位以上を修得しなければならない。

**文化総合学科**

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語のうち1外国語8単位以上を修得しなければならない。

各学科とも、外国語を8単位以上修得した場合には、卒業要件の自由選択単位として算入される。

(3) 学科専門科目

a. 所属学科の学科専門科目は、各学科の「教育課程表」及び履修ガイドにしたがって定められた単位を修得しなければならない。

b. 学科専門科目の「テーマ研究」は、文学部の複数の教員が協力しあって共同開講する科目である。開講対象学年は、2年、3年、4年である。

(4) 他学科専門科目

a. 他学科の専門科目を履修し単位を修得した場合は、自由選択単位として卒業要件に含めることができる。

b. 他学科専門科目として履修できる学科専門科目については、各学科の「教育課程表」を参照すること。

⑤ 他学部専門科目

人間生活学部の共通科目、学科専門科目を履修し単位を修得した場合は、12 単位まで自由選択単位として卒業要件に算入できる。

履修についての詳細は、人間生活学部の教育課程表及び履修ガイドを教務課で閲覧、確認すること。

⑥ 教職に関する科目

a. 教職に関する科目は、教育職員免許状取得のために開設している科目であるが、指定された科目の内 8 単位まで、卒業要件の自由選択単位に含むことができる。詳しくは、p.109 の教育課程表を確認すること。

b. 教育職員免許状の資格取得を希望する場合は、教職課程履修要項に従って免許状取得に必要な単位を履修しなければならない。

3 学 期

学期は前期（4月～9月）と後期（9月～3月）の2学期とし、各学期は、15 週を原則とする。

4 授 業 時 間

授業は次の時間割によって行われる。

講 時	時 間	時 限	時 間
I	9：00～10：30	1	9：00～ 9：45
		2	9：45～10：30
II	10：40～12：10	3	10：40～11：25
		4	11：25～12：10
III	13：00～14：30	5	13：00～13：45
		6	13：45～14：30
IV	14：40～16：10	7	14：40～15：25
		8	15：25～16：10
V	16：20～17：50	9	16：20～17：05
		10	17：05～17：50

5 単 位

各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。

- (1) 講義及び演習については、15 時間から 30 時間の授業をもって 1 単位とし、科目によってその基準は異なる。
- (2) 実験、実習、実技については、30 時間から 45 時間の授業をもって 1 単位とし、科目によってその基準は異なる。
- (3) 卒業論文及び卒業研究の授業科目については、学修の成果を評価し所定の単位を授与する。

6 単位修得の要件

- (1) 所定の履修登録を完了すること。
- (2) 欠席時（回）数が総授業時（回）数の 1/3 を超えていないこと。
- (3) 試験またはレポート等による成績が合格点（60 点以上）であること。

7 既修得単位の認定

- (1) 既修得単位の認定の申請ができる者は、本学または他の大学を卒業または中途退学し、新たに 1 年目に入

学した者に限られる。

- (2) 本学が教育上有益と認めるときは、学則第 19 条の 4 第 1 項及び第 2 項の定めるところにより、既に修得した単位について、60 単位を超えない範囲で本学において修得した単位として認定することができる。
- (3) 既修得単位の認定を受けようとする者は、所定の申請書に卒業証明書および成績証明書を添えて、新年度の履修登録期限前に申請することができる。教職課程の科目について既修得単位の認定を受けようとする者は、さらに単位修得証明書も添えること。

## 8 履修登録

入学年度の教育課程表および履修ガイドを参考に卒業までの履修計画をたて、その年度に履修するすべての授業科目について履修登録をし、科目の登録をしなければならない。

### (1) 履修登録についての注意事項

- ① 教育課程表により配当されている所定年次（学科・クラス指定のある科目は指定クラス）の授業科目を履修しなければならない。
- ② 履修登録した科目でなければ履修することはできない。
- ③ すでに単位を修得・認定された授業科目の履修登録は認められない。
- ④ 同一時限に 2 科目以上の履修登録は認められない。

### (2) 履修登録単位数の上限

履修登録をした授業科目の履修にあたっては、単位修得にむけて最善の努力をしなければなりません。

自学自習の時間を考慮し、卒業要件を年次配分し無理なく履修計画を立てた場合、年間 40 単位前後の履修で、3 年次までに卒業要件の総単位数<124 単位>を修得することが出来るが、再履修等を考慮し年間登録単位数の上限を下記のとおり定めている。無計画な履修登録をし、過重負担にならないよう心がけること。

#### □ 2007 年度入学生から適用

履修上限単位

	英語文化学科	日本語・日本文学科	文化総合学科
1 年次	44	48	48
2 年次	48	48	48
3 年次	48	48	48
4 年次	48	48	48

※文学部各学科の上記の上限単位の中に、教職課程科目、図書館情報学課程科目、日本語教員養成課程科目、短期語学研修科目を含まない。

### (3) 履修登録の期間

4 月 8 日(金)～18 日(月)の指定された日時

※ただし、後期開講科目については、卒業要件、進級要件と免許取得にかかわる科目のみ  
9 月 13 日(火)・14 日(水)の期間に追加登録することができる。

## 9 試 験

定期試験 (1) 定期試験は、前期および後期の授業終了後、定められた期間に行う試験である。

(2) 定期試験は、平常の授業時間割と異なる時間割で行われる。

試験の時間割は、各定期試験開始の 1 週間前に掲示により発表されるので、掲示には十分注意すること。

(3) 定期試験に代わる期間外実施試験、レポート・作品等の提出も定期試験に準ずる。

追 試 験 (1) 追試験は、病気その他やむを得ない理由で定期試験を欠席した者が、「定期試験欠席届(追試験

願)」を提出して、それが認められた場合に行う試験である。

(2) 追試験を願い出る者は、定められた期日までに下記証明書等を添えて「定期試験欠席届（追試験願）」を教務課に提出しなければならない。

(3) 追試験の受験料は1科目500円とする。(ただし公認欠席、出席停止の場合は受験料を徴収しない)

#### (4) 追試験の受験資格

- |                                       |                   |
|---------------------------------------|-------------------|
| 1. 就職試験                               | 受験票写、受験先証明書       |
| 2. 公的交通機関の遅延                          | 当該交通機関の発行する遅延証明書  |
| 3. 学校保健安全法施行規則第18条<br>第一種～第三種による学校感染症 | 医師の診断書            |
| 4. 不意の疾病                              | 医師の診断書またはこれに準ずるもの |
| 5. 交通事故                               | 事故証明書             |
| 6. 学外実習                               | 実習担当者の証明          |
| 7. その他やむを得ない理由                        | その事由を証明するもの       |

※ 上記の理由以外について追試験を認める場合があるが、当該試験に合格したときの成績は60点とする。

※ 前期追試験は9月、後期追試験は2月に日時を定めて行う。

#### 試験に関する注意事項

試験受験の際には学生証が必要です。学生証が無ければ試験は受験できません。

(期間外試験も同様です)

学生証を忘れた場合は仮受験票を発行しますので教務課へ来てください。

1. 受験にあたっては、監督者の指示に従うこと。
2. 遅刻者の入室は、試験開始後25分以内とする。
3. 試験場からの退場は、試験開始後30分以降とする。
4. 試験期間中は長机(3人掛け)の真ん中の席は使用しないこと。
5. 特別に持ち込みを許可されたもの以外は、机の上においてはならない。
6. 不正行為は絶対行わないこと。不正行為を行った者は、
  1. 該当科目を不認定とする
  2. 学則による懲戒処分対象となり学籍原簿への記載がなされ永久に記録される。
  3. 処分内容は、保証人へも通知される。

## 10 成績

1. 成績の評価は次のとおりである。

#### 評価基準

優	100~80	合格
良	79~70	
可	69~60	
不可	59~0	不合格
放棄	×	

※ 優・良・可を合格、不可を不合格とする。

※ 不可および放棄は、成績証明書には表記しない。

※ 定期試験(レポート提出)欠席者で追試験願の届け出がない者、欠席が1/3以上の者は放棄として扱う。

※ 2009年度以降に実施される短期語学研修の場合は、成績評価を行わず単位認定のみとする。

2. 履修科目の成績は、成績通知書を各自に交付し通知する。

成績通知書の交付

前期	9月12日(月)	全 学 年	教務課窓口
後期	3月3日(土)	全 学 年	

在学生の保証人（親・学費負担者）に前年度成績及び当年度履修科目を5月中旬に通知する。

11 進級に必要な単位数

2007年度入学生から適用

	文 学 部		
	英語文化学科	日本語・日本文学科	文化総合学科
卒業必要単位	2年次終了までに1年次に開講されている学科基礎科目（必修）10単位を含み、30単位以上を取得しておかなければならない	2年次終了までに56単位以上を取得しておかなければならない	2年次終了までに40単位以上を取得しておかなければならない

※海外留学協定校に留学した（もしくは留学中の）学生には適用しない。

# I. 履修の手引き

〈2010 年度以降入学生〉

## 1. 共通科目

共通科目

a、共通科目の必修科目及び単位数は次のとおりである

キリスト教学	2 単位
聖書学	2 単位
合計 2 科目	4 単位

## 2. 外国語科目

外国語科目

- a、ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語は、各外国語の初級Ⅰ・初級Ⅱの2科目4単位を履修しなければその中級を履修することはできない。
- b、英語の場合は、科目を自由に組み合わせてよい。ただし、英会話Ⅱを履修する場合は、英会話Ⅰを、上級英語Ⅰ（会話）の場合は、英会話Ⅰと英会話Ⅱの両方を、既に履修していることが望ましい。
- c、受講者が多い場合は、人数制限をすることがある。その場合には、調整結果を掲示により連絡するので、確認してから履修登録をすること。

### 英語文化学科

初級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、上級ドイツ語 a・b	このうち 1 外国語 8 単位以上 選択必修
初級フランス語Ⅰ・Ⅱ、中級フランス語Ⅰ・Ⅱ、上級フランス語 a・b	
初級中国語Ⅰ・Ⅱ、中級中国語Ⅰ・Ⅱ	
初級コリア語Ⅰ・Ⅱ、中級コリア語Ⅰ・Ⅱ	

### 日本語・日本文学科

総合英語Ⅰ・Ⅱ、英会話ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB 英語講読ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB 上級英語Ⅰ a・b、上級英語Ⅱ a・b	このうち 1 外国語 8 単位以上 または 2 外国語 各 4 単位以上 合計 8 単位以上 選択必修
初級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、上級ドイツ語 a・b	
初級フランス語Ⅰ・Ⅱ、中級フランス語Ⅰ・Ⅱ、上級フランス語 a・b	
初級中国語Ⅰ・Ⅱ、中級中国語Ⅰ・Ⅱ	
初級コリア語Ⅰ・Ⅱ、中級コリア語Ⅰ・Ⅱ	

※ 2 外国語を卒業要件として履修する場合、英語以外の外国語の組み合わせは、原則として初級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、初級フランス語Ⅰ・Ⅱ、初級中国語Ⅰ・Ⅱ、初級コリア語Ⅰ・Ⅱの、いずれかで履修しなければならない。

※ 英語の場合は、英語文化学科「学科基礎科目」、「講読科目」で充当可。

### 文化総合学科

総合英語Ⅰ・Ⅱ、英会話ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB 英語講読ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB 上級英語Ⅰ a・b、上級英語Ⅱ a・b	このうち 1 外国語 8 単位以上 選択必修
初級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中級ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、上級ドイツ語 a・b	
初級フランス語Ⅰ・Ⅱ、中級フランス語Ⅰ・Ⅱ、上級フランス語 a・b	
初級中国語Ⅰ・Ⅱ、中級中国語Ⅰ・Ⅱ	
初級コリア語Ⅰ・Ⅱ、中級コリア語Ⅰ・Ⅱ	

※ 英語の場合は、英語文化学科「学科基礎科目」、「講読科目」で充当可。

- ☆ 三学科とも、上記の卒業要件以上に外国語を修得した場合は、自由選択単位として算入される。
- ☆ 教職免許状を取得する場合は、卒業要件を満たすと同時に、教職課程履修要項で外国語コミュニケーションの科目として指定されている科目の中から、2 単位を履修しなければならない。

### 3. 他学科からの選択必修

三学科とも所属学科以外に開かれている科目（クラスター基礎科目）を4単位以上選択必修として履修しなければならない。クラスター基礎科目については『クラスター履修ガイド』を参照すること。尚、この4単位は1・2年次までに履修することが望ましい。

## 4. 英語文化学科専門科目

### 1 カリキュラムの概要

英語文化学科のカリキュラムは、「学科基礎科目」と「卒業研究関連科目」は必修科目ですが、それ以外の科目は選択必修科目あるいは選択科目です。ですから自分の好みに合った科目ばかりを集中的に履修することもできますし、さらに他学科の科目も含めて様々な領域の科目を興味・関心に沿って幅広く履修することも可能です。しかし、このカリキュラムでは最終的に4年次の卒業研究（卒業論文）に結実することを目標として編成されているので、なるべく早い時期に自分が関心を持てる領域を見つけることが大事なというのはいうまでもありません。

そのために4つの「系」、すなわち「文学系」「英語学系」「コミュニケーション系」「総合研究系」が用意されています。「系」は「コース」とは違って、強い拘束力を持つものではありません。「コース」のように入り口によって進む道が違ってくるというのではなく、入り口は一つですが、ゴールが複数用意されているものと考えて下さい。これは皆さんが卒業研究に向けて4年間勉強してゆくための道標のようなものなのです。ですから、ある一つの系を選んだ後でも別の系の科目を履修することも自由ですし、また、途中で系を変更することも可能なのです。

ところが、英語文化学科に所属して勉強してゆくうちに、この学科本来の領域を越えた卒業研究のテーマに出会うことがあったり、あるいは、どうしても自分の好みに合った分野、つまり系がここでは見つからない、むしろ他学科に用意されている学問分野に興味を覚える、ということが起こるかもしれません。その時には、4つの系を選ばずに、学科を横断して設定された科目群である「クラスター」を選んで卒業研究に向けて勉強してゆくことも可能です。詳しくはクラスター履修に関する説明を参照して下さい。

### 2 4つの系の紹介

#### (1) 文学系

現在は英米の文学を扱った科目が主流となっていますが、原則として英語で書かれたものであれば世界中のどの国の作品でも研究対象となります。この系を選ぶには、日ごろから英語に限らずいろいろな文学作品に親しんでいることが大事なのは言うまでもありませんが、「文学とは何か」「文学は何のためにあるのか」などが分からないと感じている学生も、この系の中で答えを見つけることができるかもしれません。

#### (2) 英語学系

この系は単なる語学学習を越えて、英語そのものに興味を抱いてもっと深く研究してみたいと思う人のための系です。音韻論、統語論、意味論、形態論、文体論など、英語学の下位区分は多種多様です。また、英米以外にもオーストラリアやカナダなどを始めとして世界の様々な地域で英語が話されているのですから、その地域特有の英語の特徴を研究することも出来るでしょう。アプローチの方法は無限にあります。

### (3) コミュニケーション系

英語でコミュニケーションできるということはどういうことでしょうか？ それは英語の文法構造や単語を知っていることではなく、コミュニケーションの相手と英語で関係を作っていく仕方を知っていることです。それは日本語で関係を作っていく仕方と似ている所もありますが、ずいぶん違います。この系では、相手との関係を英語で作るというコミュニケーションの能力をつける経験の中で、言語を使って作り出される話し手・聞き手の関係がどのようなものか、コミュニケーションにおいて実際に何が起っているのかを考えていきます。

### (4) 総合研究系

文学や語学のことを考えているつもりが、気がつくとも歴史や思想、そしてもっと広い文化領域のほうに踏み出してしまう、あるいはいつのまにか英米文化と日本文化の狭間に身を置いてものごとを考えている、ということがあられるでしょう。もちろん初めからある地域についての文化研究や二つの文化の比較研究に関心を持っている人もいます。この系はそのような横断的な学生のために用意されています。

## 3 科目の区分と履修上の注意

英語文化学科のカリキュラムはいくつかの区分に分類されています。そして区分ごとに必修単位や選択必修単位が設定されています。以下、それぞれの区分について簡単に説明しながら、履修上大切なポイントを挙げてゆきます。

### (1) 学科基礎科目

本学科で研究してゆくための基礎的な英語力を養う科目群です。すべて1、2年次に開設される少人数クラスの科目ばかりです。どれも必修科目ですので、取りこぼしのないように気をつけて下さい。3年に進級する時には1年次の学科基礎科目10単位すべて取得しておくことが条件です。1、2年次で履修漏れがあると、3、4年次に再履修しなければなりません。その時に3、4年次開設科目と時間割上ぶつかってしまい、取りたい科目が自由に取れないばかりか、場合によっては4年間で卒業できないという事態も生じますので十分注意して下さい。

学科基礎科目は1講の授業を2分割したり、大部分の科目をネイティブの教員が担当するなど、開講形態に工夫を凝らして、科目間で互いに連動した総合的な授業が展開されます。詳しくはオリエンテーションで説明されますが、その時配布される資料や時間割をよく参照して、間違いのないように受講して下さい。

### (2) 講読科目

英語文化の研究は基本的に読むことを通して行なうべきとの考えから、このカリキュラムでは「学科基礎科目」の「Reading I」「Reading II」に加えて「講読科目」を複数用意してあります。「基礎講読科目」（1、2年次）と「専門講読科目」（2、3年次）に分かれています。いくつかのジャンルから自分の好みに合った科目を選んで、「基礎」と「専門」からそれぞれ2科目2単位ずつ、合計4科目4単位以上を卒業までに忘れず履修するようにして下さい。

### (3) 基礎演習科目

1、2年次用の演習科目という名目ですが、事実上、3、4年次の本格的な演習に至るための演習入門的な性格を持った科目です。そしてまた、最初の2年間で気に入った系を見つけるための大切な科目でもあります。2年間で2科目4単位だけ履修すればよいことになっていますが、できれば異なる系の演習を3、4科目履修してみるのがよいかもしれません。ただし2年間で4科目を越えて履修しないようにして

下さい。(少人数クラスを実現するためです。)

※少人数クラスを実現するために、受講生は25名以下に制限されますので、注意して下さい。

#### (4) 文学系講義科目、総合研究系講義科目、英語学系・コミュニケーション系講義科目

系別に分類された講義科目です。これらの科目も系を選択する際に重要な材料になるはずですが、

1年次に開講している文学史や概論の科目は、前期と後期の両科目を履修することが効果的です。その他の科目はそれぞれの分野の各論の科目が多く設定されています。

自分の選んだ系の講義科目からは多めに履修しなければいけないので、注意が必要です。1、2年次に各系の講義科目で定められた学科選択必修分を履修して(3区分で合わせて8単位、もちろんそれ以上修得することが望ましい)、系が決まった3、4年次に自分の系の科目をさらに上乘せして履修する(系で定められた選択必修単位数を充足させる)というのがよい履修方法でしょう。

#### (5) 実践英語科目

実践英語科目には、学科基礎科目で培った英語力をさらに発展させるために効果的な科目が用意されています。リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を向上させたり、さらには翻訳や通訳の技能を学んだりすることが出来ます。そうすることで、就職先で英語を活用するため、あるいは留学や、卒業後に海外の大学院に進学するための準備にもなります。すべて選択科目です。ぜひチャレンジしてみてください。

#### (6) 演習科目

卒業研究につながる大事な、そして本格的な演習科目です。3、4年次開講となっていますが、実質的に4年間で一番勉強に専念できる3年生が主体となります。3年のうちに2科目8単位修得するのがよいでしょう。文学系、英語学系、コミュニケーション系は同一系の演習科目から8単位、総合研究系は総合研究演習AまたはBを含めて8単位を修得して下さい。

※少人数クラスを実現するために、受講生は25名以下に制限されますので、注意して下さい。

#### (7) 卒業研究関連科目

「Essay Writing I」と「Essay Writing II」は3年次の必修科目です。4年次で卒業論文を書くための準備として欠かせない授業です。「卒業研究演習」は4年次の必修の演習科目です。内容的にも自分が選んだ卒業研究(論文)のテーマと関連した演習となります。

#### (8) 他学科の科目

文学部では、所属する学科とは無関係に自由に他学科の科目を履修することができます。担当教員の許可が必要な場合もありますが、原則として自由に履修できます。例えば、コミュニケーション系で勉強したいと思う学生には文化総合学科の「異文化コミュニケーション系列」の科目群が役に立つでしょうし、総合研究系の学生の場合は同じく文化総合学科の思想、歴史関連の科目を履修する必要があるかもしれません。文学や英語学に関心がある学生は日本語・日本文学科のカリキュラムに魅力的な科目を見つけることができるでしょう。そうして、学科横断の「クラスター」を選んで卒業研究に進むこともできます。

## 4 卒業研究について

英語文化学科を卒業するためには、4つの系の中から一つ選んで、4年次に「卒業研究」を修得する必要があります。「卒業研究」は最終的に卒業論文を提出します。

卒業論文は、5,000語以上の長さの英文で書かなくてはなりません。自分の考えを、論旨を組み立てて正確に表現する力はもちろんのこと、かなり高度な英作文の力も求められます。

提出期限は4年次の12月15日正午（厳守）です。詳しくは『学生便覧』の「英語文化学科卒業研究規程」を参照して下さい。

※卒業論文の仮題目（テーマ）は3年次の1月31日までに提出しなければなりません。しかし、実は3年次4月の段階で演習科目を選択するわけですから、その時までには少なくとも系の選択が実質的になされていなければなりません。つまり、それまでの1、2年次の勉強がとても大事になってくるのです。繰り返しになりますが、1、2年次の基礎演習科目や講義科目を通して関心の持てる分野を見つけ出せるように、最初の2年間から有意義な学生生活を送るよう心がけて下さい。

## 5 英語文化学科の教員と専門分野

本学科所属の教員と専門分野は次の通りです。

学科主任	平松 哲司	教授	16、17世紀イギリス文学
	新井 良夫	教授	英語学、音声学
	井筒美津子	准教授	英語学、コミュニケーション研究
	伊藤 義生	教授	20世紀アメリカ文学、アメリカ研究
	大石 悦子	教授	言語学、コミュニケーション研究
	大桃 陶子	講師	19、20世紀イギリス文学
	木村 信一	教授	19世紀アメリカ文学、アメリカ研究
	Sanders, Jon Barry	教授	イギリスロマン派詩、文学批評、イギリス研究
	下田 尊久	准教授	図書館情報学
	山木戸浩子	准教授	言語学、言語教育論
	Kraus, William Aaron	講師	コミュニケーション
	Flenner, David	講師	コミュニケーション

6 4年間の履修の一例

	必修科目	選択必修科目	選択科目	履修上のヒント
一 年	外国語 (4) キリスト教学 (2) 聖書学 (2) 文法・作文 (2) Oral English I (2) Oral English II (2) Reading I、II (2) Voice & Articulation (1) Listening (1) 計18単位	講読科目 (2 程度) 基礎演習 (4 程度) 講義科目 (4・6 程度)	他学科開講科目	1、2年次中に他学科、特に文化総合学科の基礎的な科目を履修することが望ましい。 適切に系を選択するためになるべく多くの講義課目を履修すること。  基礎演習は5科目を上限とする。
	合わせて14単位以上 計32単位以上			
二 年	外国語 (4) The Art of Writing (2) Oral English III、IV (2) Reading III、IV (2) 計10単位	講読科目 (2 程度) 基礎演習 (4 程度) 講義科目 (4・6 程度)	Business & Tech 翻訳ワークショップ English Discussion 特殊講義 a テーマ研究科目 他学科開講科目	
	合わせて22単位以上 計32単位以上			
三 年	エッセイ・ライティング	講読科目 (2 程度) 演習科目 (8 程度) 講義科目 (8 程度)	翻訳ワークショップ 英語学研究 エッセイ・ライティング English Discussion コミュニケーション研究 英米文化研究 特殊講義 b テーマ研究 他学科開講科目	3年次中に演習科目をなるべく2科目8単位修得すること。
	計32単位以上			
四 年	卒業研究演習 (4) 卒業研究 (4)	講読科目 (2 程度) 講義科目 (4 程度)	英語学研究 コミュニケーション研究 英米文化研究 特殊講義 c テーマ研究 他学科開講科目	これまでの総単位数をチェックして履修すること。
	計28単位以上 合わせて32単位以上 合わせて24単位以上			
4年間で計124単位以上				

( ) 内は単位数。

各学年の単位数はあくまで目安の数字です。実際には与えられた数字よりも多めに履修するように心がけて下さい。

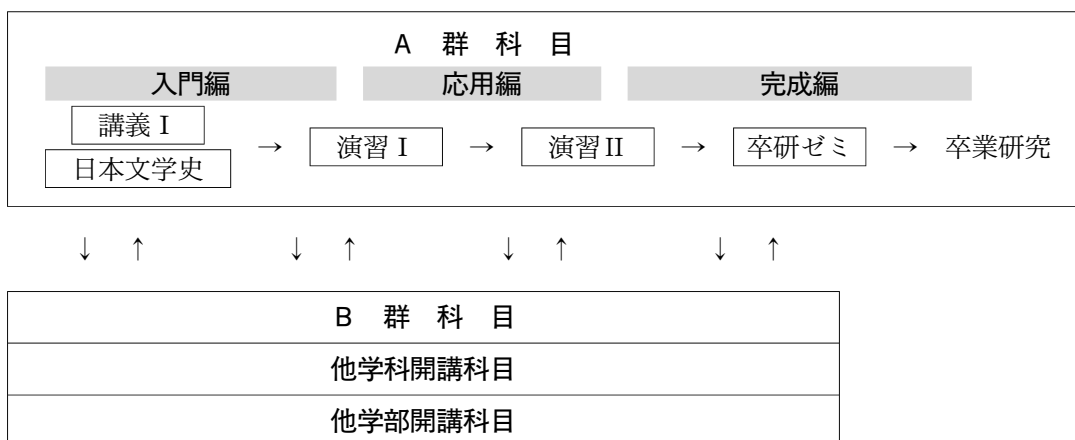
## 5. 日本語・日本文学科専門科目

日本語・日本文学科のカリキュラムは、皆さんが自主的にテーマを模索、探求し、そしてそれを表現する力を身につけることを支援する目的で作られています。

【表1】 日本語・日本文学科カリキュラム

	科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	備考
A群科目	講義Ⅰ	選択必修	選択必修			
	日本文学史	選択必修	選択必修			
	演習Ⅰ		選択必修			一学年2コマまで履修可 専任教員全員で担当
	演習Ⅱ			選択必修	選択	一学年2コマまで履修可 専任教員全員で担当
	卒業研究ゼミⅠ			選択		一学年1コマ 専任教員全員で担当
	卒業研究ゼミⅡ				必修	一学年1コマ 専任教員全員で担当
	卒業研究(卒業論文)				必修	
B群科目	特殊講義		選択	選択	選択	
	日本文化論	選択	選択	選択	選択	
	講義Ⅱ		選択	選択	選択	
	日本思想史		選択	選択	選択	
	日本語学概論 日本文学概論		選択	選択	選択	
	書道	書道Ⅰ・Ⅱ	書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	書道Ⅲ・Ⅳ	書道Ⅳ	
	古文読解	選択	選択			
	日本語表現法	選択				
	他学科開講科目					クラスター基礎科目 (選択必修)を含む
	他学部開講科目					

【図1】 日本語・日本文学科カリキュラムの理念

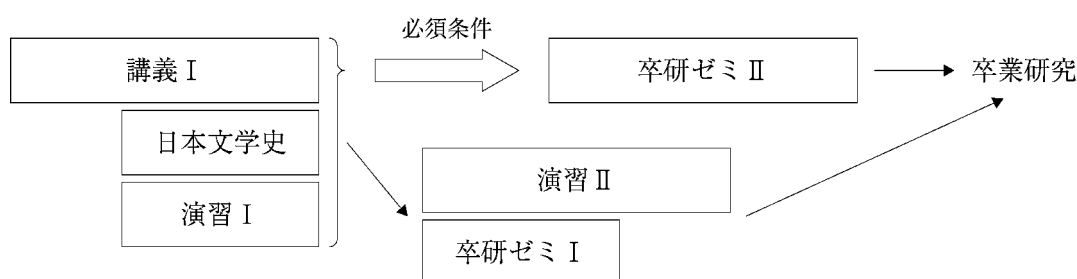


### ■カリキュラムの柱 — A群科目 —

表現力を育て、四年間の学問的活動を最終的に「卒業研究」に仕上げるまでの基本的なプロセスは、表1および図1の「A群科目」に示されています。

「A群科目」には「講義Ⅰ」「日本文学史」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒研ゼミ」「卒業研究」の6種類の科目が含まれます。「講義Ⅰ」「日本文学史」は、各研究領域、ジャンルのいわば入門編に当たるもので、《基礎》となる知識や方法論を学ぶ場となります。「演習Ⅰ」は、具体的な課題に取り組みながら、「講義Ⅰ」で学んだ基礎を《研究》に生かしてゆくための訓練をする場となります。「演習Ⅱ」は、参加者が各自の課題を設定して自力で調査研究し、その成果を他の参加者に対して《発表》する場、つまり、問題意識や方法論の訓練と同時に構想力や表現力の鍛錬を行う場ともなるはずです。研究内容も「演習Ⅰ」よりさらに高いレベルのものが求められてきます。「卒研ゼミ」は、各自が「卒業研究」に直結するテーマを、これまでに培った知識と方法論とを傾けて可能な限り掘り下げてゆきながら、同時にそれを他の人々に対して十分な説得力を持つ形に（要するに「論文」のスタイルに）まとめ上げるための、より高度な《技術》を磨く場になるでしょう。こうして「卒研ゼミ」をクリアした暁には（理想的にゆけば）、「卒業研究」がほぼ完成しているということになるわけです。

【図2】 A群科目の流れ



ではどのように「卒業研究」に結びつく関心領域を見つけてゆけばよいのでしょうか。自分自身の関心領域については、できれば1・2年次のうちにおおよそのところを絞り込んでおくのが望ましいでしょう。1・2年次中に「講義Ⅰ」6単位、「日本文学史」4単位を、2年次に「演習Ⅰ」4単位をそれぞれ必修として課しているのは、その絞り込みの目安にしてほしいという意図からです。1・2年次に少なくとも3種類の「講義Ⅰ」科目を選択履修することは、自分の可能性と興味関心のありかを見極めるチャンスになるはずです。（早い学年のうちになるべく多くの領域にわたる講義に触れておくことが、その後の方向選択を容易かつ余裕あるものにしてくれるでしょう。）そして2年次にはひとまず「演習Ⅰ」を一つ（または二つ）選んで、自分のその関心が本物なのかどうか、今後その研究領域で研究を進めて行けるのかどうかを確認してみしてほしいのです。（もしここで自分の選択が誤っていたことに気づいたとしても、その後の研究の方向修正は、卒業までの2年間で充分可能なはずです。もちろんなるべくはそのようなことにならないよう、慎重に慎重を重ねてベストの選択をしてほしいと思います。）そうすれば3年次には、1・2年次で絞り込んだ関心領域に合わせて「演習Ⅱ」を選び、さらに知識を深めて行くことができるようになるはずです。

なお、「講義Ⅰ」「演習Ⅰ」の単位は、上に記したように卒業のための必修の単位になっているということ以外に、「卒研ゼミ」履修のための必須条件となっているという点でもたいへん重要です。「卒研ゼミ」は3年次から受講できますが（3年次は「卒研ゼミⅠ」）、この「卒研ゼミ」を受講するためには（「卒研ゼミⅠ」「卒研ゼミⅡ」いずれの場合にも）、「講義Ⅰ」1科目（4単位）および「演習Ⅰ」1科目（4単位）をそれぞれあらかじめ単位取得しておかななくてはなりません。3年次終了時に、「講義Ⅰ」「演習Ⅰ」のどちらか一方でも単位取得していない場合には、受講資格を満たしていないわけですから、4年次必修の「卒

研ゼミⅡ」が受講できないこととなります。つまりその段階で留年が確定してしまうことになるのです(図2参照)。この点は十分に注意して下さい。この条件を満たした上で、4年次には、いずれかの「卒研ゼミⅡ」に所属し、「卒業研究」をまとめることとなります。

### ■多様な関心を見つけるカリキュラム — B群科目・他学科開講科目 —

上記の「A群科目」のプロセスをより実り豊かにするためには、幅広い視野と関心を持つことも重要です。そのために日本語・日本文学科で用意したカリキュラムが表1および図1の「B群科目」の部分に当たります。

ここには「日本語学概論」「日本文学概論」「講義Ⅱ」「日本文化論」「特殊講義」「日本思想史」などが含まれます。「日本語学概論」「日本文学概論」は講義Ⅰや「日本文学史」の基礎を確認しつつ、その分野を俯瞰する意味をもち、「講義Ⅱ」は主に日本語・日本文学に関する分野についての、「日本文化論」はその他の関連する様々な周辺領域についての、教員本人による研究の成果やそれぞれの分野の先端知識などのホットな話題が、いわゆる「講義」形式で提供される形の授業が中心になります。俯瞰的であると同時に批評的な観点を得るために「日本思想史」も必要です。「特殊講義」は、学外から様々な分野の研究者を講師に招き、一週間に限って集中的に講義をしていただく、いわゆる集中講義の形で行われる授業です。毎年、各分野の第一線で活躍中の気鋭の講師をお迎えしますので、自分自身の知識を広めたり、学習・研究を進めるヒントを得たり、様々な点でまたと無いたいへん有意義な機会になるでしょう。

これらの多彩な科目群を利用して、他領域に横断する知識や多様な研究スタイルを身につけて下さい。自分の中に多様な選択肢があってはじめて、自由に自分のテーマをかため追究する「A群科目」のプロセスが生きてくるはずです。

なお、A群科目、B群科目のほかに「古典読解」「日本語表現法」という主に1年次に向けて開講されている基礎的な事項が学べる授業があります。古典文法といった古文を読むうえでの基礎知識、また日本語の文章の書き方、論述の仕方といった初歩的なことを学習しますので、大学で学ぶことに不安を感じる人は積極的にこの科目を受けましょう。

また文学部では、他学科で開講される様々な科目も、学科の垣根をこえて可能な限り自由に選択履修できる態勢を整えました。これはいわゆる「一般教養」科目とは異なり、各学科が学科としての専門教育を目的として開く講義ですから、それぞれの分野を専門とする担当教員による最先端の知見と独自の方法論を傾けた講義内容を吸収することができるのです。こうしたバラエティ豊かな他学科開講科目を通じて、多くの分野にまたがる知識や様々な問題意識を身につけて下さい。

### ■卒業単位構成

以上の「A群科目」「B群科目・他学科開講科目」についての説明をもとに一人一人が独自のカリキュラムを設計して下さい。それに従って取得した単位数が、最終的に下の表に示した卒業要件を満たすようになっていればよいのです。

【表2】 日本語・日本文学科 必要単位数

講義 I	6 単位以上	選択必修	A 群
日本文学史	4 単位以上	選択必修	
演習 I	4 単位以上	選択必修	
演習 II	4 単位以上	選択必修	
卒業研究ゼミ II	4 単位	必修	
卒業研究	4 単位	必修	
それ以外の学科科目	20 単位以上	選択	A 群または B 群 ※ 1
共通科目 (宗教科目)	4 単位	必修	
外国語	8 単位以上	選択必修	
クラスター基礎科目	4 単位以上	選択必修	
自由選択	62 単位以上	選択	A 群または B 群 または他学科開講科目 ※ 2
合計	124 単位以上		

※ 1 ただし、書道 I～IV を除く。

※ 2 教職に関する科目 (指定された科目のうち 8 単位まで) も含まれます。  
他学部開講科目 (指定された科目のうち 12 単位まで) も加わります。

### ■セメスター制について

本学科の講義 I はセメスター制に基づく科目です。セメスター制では、前期と後期が同じ授業内容になりますので、前期か後期のどちらかしか受講できません (講義 I は 1 科目 2 単位です)。講義 I をできるだけ多く履修できるようにこのような講義形式になっているのです。なお講義 I につきましては、日本語学分野から 2 単位以上、古典文学分野から 2 単位以上、近現代文学分野から 2 単位以上、計 6 単位以上を 2 年次終了時までには取得しておく必要がありますので気をつけてください (詳しくは教育課程表の講義 I の備考欄を見てください)。

### ■クラスター制について

本学部においては、クラスター制で卒業論文を書くことが可能です。クラスター制を利用すれば他学科の教員のもとで卒業論文を書くこともできます。詳しくはクラスター制履修要項を参照してください。

## 6. 文化総合学科専門科目

### 1 カリキュラムの概要

文化総合学科のカリキュラムは、「現代文化の交流と社会」「現代社会の文化の基層」の2つの領域からなり、さらにこれらはそれぞれ、「異文化コミュニケーション」「社会と制度」、「歴史」「思想と宗教」の4つの系列に分類されています。これらの領域や系列は「コース」ではないので、これら領域・系列にまたがって、自分の履修したい科目を選ぶことができます。文化総合学科の領域・系列はあくまでも学問分野で分類されているグループで、各領域や系列で特定の分野を極めるか、それぞれに広くまたがって領域を越えたテーマを研究するかはみなさんの自由です。

このほか、文学部の他学科の科目にも履修できるものが多く用意されているので、他学科科目も含めて、自分が卒業までに研究したいテーマに向けて必要な科目を履修できます。

ただし、卒業するためには最終的に卒業研究(卒業論文)を仕上げなくてはなりません。そのためには、さまざまな科目を履修していく過程で自らが研究したいテーマを見つける必要があります。そして、そのテーマをなるべく早く見つける方がよいことはいまでもありません。

### 2 2つの領域と4つの系列について

#### I 「現代文化の交流と社会」領域

この領域には、「異文化コミュニケーション」と「社会と制度」の2つの系列があります。

##### (1) 「異文化コミュニケーション」

この系列ではさまざまな国や民族の文化間の交流について研究します。具体的には交流の手段・媒体である言語を修得し、これらをもとにして各国・各民族特有の文化に迫ります。目的は文化の研究で、そのためには相応の語学力が必要となりますから、語学学習をしっかりとこないます。また、この系列については、「異文化コミュニケーション」という分野の性質からして、特定の言語の習得とその言語を用いる国や民族の文化研究をセットにした履修が奨められます。このほか、言語以外の表現(芸術表現や映像による表現など)も研究対象とします。

##### (2) 「社会と制度」

この系列では、現代を中心にした社会のシステムを研究対象とします。中心となるのは高校でいえば「政経」の内容に当たる政治学・法学・社会学・経済学などの社会科学系の分野です。

#### II 「現代社会の文化の基層」領域

この領域には、「歴史」と「思想と宗教」の2つの系列があります。

##### (1) 歴史

この系列は高校の「世界史」「日本史」に対応する「西洋史」「日本史」「東洋史」などの科目からなっています。歴史に興味のある人はこの系列を重点的に履修するのもよいでしょう。なお、この系列では文化史や宗教史など、特定の事柄を中心とした科目もあります。

詳しくは科目ごとのシラバスを読んで選択してください。

##### (2) 「思想と宗教」

この系列は高校の「倫理社会」の内容に当たる「思想」、「宗教」に関する科目から構成されています。具体的には、西洋の哲学、倫理学、思想、宗教を中心として、日本・中国の哲学、思想、宗教を含む古今東西の思想についての科目も用意されています。思想や宗教について、深く研究したい人はこの系列の中

心に履修すればよいでしょう。そうではなく、他の学問分野を扱いたいと考えている人も、思想や宗教はそれらの学問分野の基本的部分に関わってくることが多いですから、必要に応じて選択する場合もあるでしょう。

### 3 科目の区分と履修の心構え

文化総合学科の科目は授業の形態やレベルに応じて、以下のように区分されます。

#### (1) 入門科目

これらの科目は各専門分野の入門的な内容を扱う講義形式の授業で、各専門分野に入るに当たって必要な基本的知識や考え方を学びます。これらの科目はどのような専門分野に進むにしても基礎として役に立つ場合が多く、また多くは1、2年次に開講されているので、何を研究するかが決まっていなかった人や迷っている人はなるべく多くの入門科目を履修してみるとよいでしょう。

#### (2) 特講科目

これらの科目は、一般的で基礎的な内容の入門科目に比べて、より専門的で特殊化された内容を扱います。したがって、入門科目を多く履修してある程度自分の研究したいテーマが絞られてきたら、そのテーマに関連した特講科目を履修するというのが理想的です。これらの科目の多くは2、3年次に開講されています。

#### (3) 基礎演習

これらの科目は文化総合学科の1年生を対象とした演習科目です。ここでは、まず大学における学問研究の入り口として、どのように研究テーマを選んでゆけばよいか、どのように学んでゆけばよいかを身につけます。必要な資料や文献の探し方、レポート作成や研究報告の仕方を実際に担当教員の具体的個別的な指導を受けながら勉強します。この際の教材は、原則として各担当教員の専門分野に関連したものが用いられます。基礎演習は大学での勉強の仕方を学ぶ科目ですから、将来選択するであろう卒業研究のテーマや学問分野と関係のない内容のものをとってもよいでしょう。

#### (4) 演習科目

これらの科目は2年次、3年次に開講されている演習科目です。基礎演習と異なって、各専門分野の担当教員指導のもと、より専門的な内容が扱われます。2年次と3年次で連続して同じ専門分野の演習を履修することが望ましいとされています。したがって、2年次に同じ専門分野の演習を履修していなければその分野の3年次の演習の履修が認められない場合もあります。(☆これは担当教員の方針によりますので、当該演習科目のシラバスを参照し、不明な場合には各担当教員と事前に相談するように心がけてください。)この場合、原則としてどの演習科目を履修したかによってどの教員(どの専門分野)の卒研演習をとれるかが決まるので、2年次に入る際に自分の研究したいテーマをある程度絞らなければならない場合がでてきます。テーマを絞りきれない人は複数の演習を履修しておく方が望ましいでしょう。

#### (5) 卒研演習

自分がこれまで学んできた成果を卒業論文にまとめるための演習です。指導を受けたい教員の卒研演習を履修するためには、少なくとも3年次にその教員の演習を履修しておく必要があります。他学科の教員の指導のもとで卒業論文を書く場合には、その学科のとりきめや指導教員の指示に従って所定の科目を履修しなければなりません。

#### (6) 卒業研究(卒業論文)

自分がこれまで研究してきた成果を論文にまとめ、評価を受けた上で単位を認められる科目です。

## (7) テーマ研究

3つの学科の複数の教員による学問・地域横断的なテーマについての講義授業です。

具体的な開講形式はそれぞれの科目によって異なります。文化総合学科専門科目としてカリキュラム表に掲載されていますが、文学部3学科共通で開講されています。専門分野を越えた興味あるテーマや見解、あるいは専門分野を深めるに当たっての有意義な議論が含まれています。

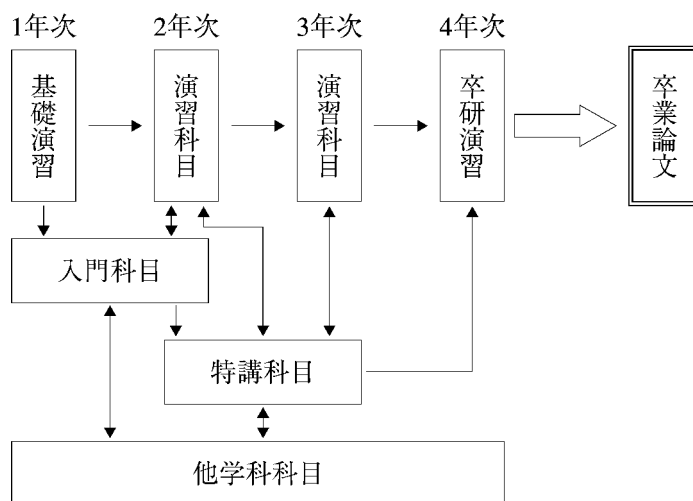
## (8) 他学科の科目

文学部では、原則として所属学科以外の学科専門科目を自由に履修することができます。ただし、なかには受け入れが予定されていない科目や担当教員の許可が必要な科目もありますので、シラバスや当該学科の履修の手引きを参照してください。

## 4 科目の区分と構成・履修の流れ

上記の説明を図にして、履修に当たっての留意点をまとめておきます。

【図1】



- ① 基礎演習は文化総合学科1年生の必修科目です。前期・後期の半期科目で、それぞれの担当教員ごとに「基礎演習A」（前期）と「基礎演習B」（後期）があります。自分の関心にあわせて前期と後期で別々の教員の科目を履修することになっています。
- ② 演習科目は2年次3年次に開講されており、それぞれの内容は異なるように構成されています。連続して履修すれば、その専門分野についてより深く学べるようになっています。専門分野によっては2年次の演習を履修していることが3年次の演習をとるための条件とされる場合があります。3年次の演習はどの卒研演習を履修するか（どの教員のもとで卒業論文を書くか）に関わってくるので、そのような場合には2年次演習を選択する際にある程度卒研のテーマを想定しておく必要があります。（ただし、教員によっては3年次演習のみの履修であっても、卒研演習の履修を認める場合があります。必ず2年次の演習選択時にシラバス等で確認してください。）
- ③ 卒業のための所定単位については、文学部の授業科目履修要項で確認してください。

## 5 文化総合学科の専任教員

文化総合学科所属の専任教員は以下のとおりです。

石田 晴男 教授  
 伊藤 明美 教授  
 太田 眞 教授  
 大矢 一人 教授  
 金戸 幸子 講師  
 実平 奈美 講師  
 杉内 峰彦 准教授  
 野手 修 教授  
 布施 英憲 教授  
 榊潟 弘市 教授  
 松本あづさ 講師  
 真鶴 俊喜 教授  
 渡邊 浩 教授

## 6 4年間の履修モデル

	必修科目	選択必修科目	選択科目	履修上のヒント
1年	外国語 キリスト教学 聖書学	基礎演習 ※1 入門科目 ※2	入門科目 他学科科目	1、2年次中になるべく基礎的な科目（一般に入門科目）を多く履修して以後の方針の助けとすることが望ましい。  ※1 各分野の基礎演習はそれぞれA（前期）、B（後期）に分かれています。前期と後期で別の担当教員のものをとることになっています。 ※2 入門科目のうち、各系列から2科目（4単位分）ずつ、計16単位と、それ以外にクラスターの基礎科目1～2科目4単位をとらなくてはなりません。 但し、必ず全て1年次にとらなくてはならないわけではありません。
2年	外国語		演習 入門科目 特講科目 他学科科目 テーマ研究	
3年	なし	演習 特講科目	演習 入門科目 特講科目 他学科科目 テーマ研究	
4年	卒業研究 (卒業論文)	卒研演習	演習 入門科目 特講科目 他学科科目 テーマ研究	

# 課程科目

## 1. 教職課程（教職に関する科目など）

〈2010 年度以降入学生〉

### 1 教育職員免許状を取得するためのカリキュラムの概要

教育職員免許状（教員免許と略すこととします）を取得するためには、学生便覧の「教職課程履修要項」に従って免許状取得に必要な単位を修得しなければなりません。ここでは、その概要を説明します。

教員免許を取得するために必要な科目は、大きく分けて4つに分かれます。

まず一つめは「施行規則 66 条の 6 に定める科目（省令科目）」と呼ばれるもので、免許の学校種・教科種に関わらず、修得しなければいけない科目です。免許法では4つに区分されており、「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」となります。これに対応する科目が、共通科目や文化総合学科の科目として配置されています。

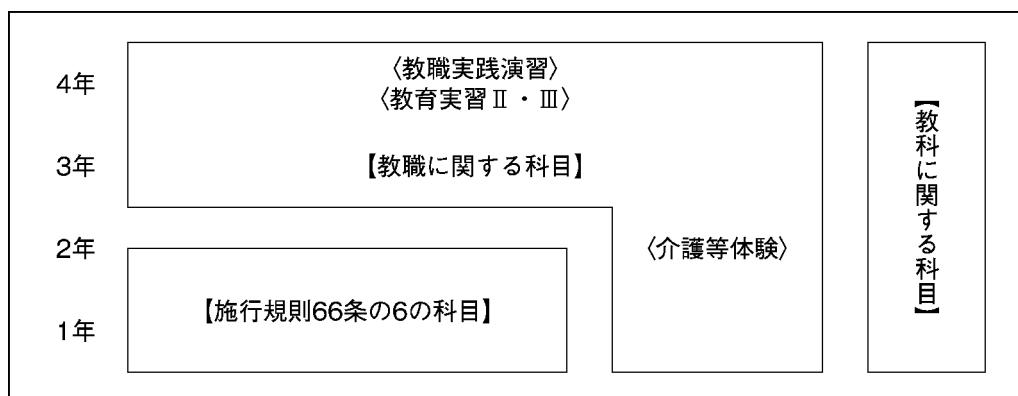
続いて「教科に関する科目」と呼ばれるもので、国語の教員になりたければ国語の内容を学ばなければなりません。すなわち、学校種・教科種によってそれぞれ違いがあり、本学では各学科の「専門科目」の中に含まれています。

さらに「教職に関する科目」と呼ばれるものもあります。これも学校種・教科種によって若干の違いがあります。「教育とはどういうものか」「学校とはどういうものか」「児童生徒の心理はどういうものか」といった理論的な内容から、授業をどのように行えばよいかという「教科教育法」「道徳教育」、さらに、実際の学校で自らが授業を行う「教育実習」などの様々な授業があります。最終的に、4年後期にこれら大学生活で学んできたものを総括するために「教職実践演習」を修得することになります。

最後に「教科又は教職に関する科目」と呼ばれるものです。これは「教科に関する科目」と「教職に関する科目」と合わせたものとともに、「介護等体験」という科目が入ります。

これら4種の科目を、1年次から4年次までに少しずつ積み上げて修得していく必要があるのです。それを図示したのが、図1となります。

【図1 教職課程 受講の流れ①】



### 2 文学部の「教職に関する科目」履修の流れ

それでは具体的に、文学部の「教職に関する科目」の1年次から4年次までの開設の配置状況を見てみます。これは、学生が履修していく流れ（モデル）ともなっています。

#### （1年次）

前期の「教師論」が入門科目として配置されています。「教師とは」ということを中心に学びます。後期には「教育課程研究」があり、「学校で教えるとは」「カリキュラムとは何か」といった点について

て大まかに学びます。

### (2年次)

「教育原理」「教育制度論」「教育心理学Ⅰ・Ⅱ」といった理論系の科目が配置されています。1年次よりも学問的に教育について考察します。また一方で、いくつかの教科(国語・社会)について教科教育法が置かれており、教科の意義や位置づけ、その教育方法について学びます。中学校免許取得希望者は「介護等体験」を実施します。

### (3年次)

学校現場における、いわゆる「領域」にあたる「道德教育」「特別活動」や、具体的な教育指導に関する「生徒指導」「教育相談」といった科目を学びます。いくつかの教科(英語、書道、地歴、公民)については、教科教育法が置かれています。また、前期に「教育方法論」が配置されており、教育実習事前指導の前段階の内容を学びます。後期には事前指導である「教育実習ⅠA」があります。

### (4年次)

事前指導である「教育実習ⅠB」が前期に配置されています。多くの学生が5～6月に教育実習を行いますので、その直前の指導となります。また教育実習から帰ってきて以降は、事後指導の時間ともなります。後期には、教職課程の総仕上げとして「教職実践演習」があり、4年間の学習を振り返ることになります。

以上をまとめると次のような図2となります。

【図2 教職課程 受講の流れ②】※2010年度以降入学生

学年	開講時期	開講科目				
4年	後期	教職実践演習			教育実習Ⅱ・Ⅲ	
	前期	教育実習ⅠB				
3年	後期	教育相談	道德教育	教育実習ⅠA	教科教育法	
	前期	教育方法論	特別活動	生徒指導		
2年	後期	教育制度論	教育心理学Ⅱ			介護等体験
	前期	教育原理	教育心理学Ⅰ			
1年	後期	教育課程研究				
	前期	教師論				

### 3 卒業要件との関係

「教職に関する科目」および「教科又は教職に関する科目」に含まれる「介護等体験」は、免許状取得のために開設されている科目のため、本来は卒業要件とは関係ありません。しかし、各学科には「自由選択単位」がありますので、以下の指定された科目のうち、8単位までは卒業要件単位に算入できます。

卒業要件として算入できる単位は、以下の科目のうち、8単位までです。

教師論	書道科教育法Ⅱ
教育原理	社会科系教育法Ⅰ
教育心理学	社会科系教育法Ⅱ
教育心理学Ⅱ	地歴科教育法
教育制度論	公民科教育法
教育課程研究	道徳教育
英語科教育法Ⅰ	特別活動
英語科教育法Ⅱ	教育方法論
国語科教育法	生徒指導
書道科教育法Ⅰ	教育相談

※ 教職実践演習、教育実習ⅠA、ⅠB、Ⅱ、Ⅲ、介護等体験は認められない。

## 〈2009年度以前入学生〉

### 1 教育職員免許状を取得するためのカリキュラムの概要

教育職員免許状（教員免許と略すこととします）を取得するためには、学生便覧の「教職課程履修要項」に従って免許状取得に必要な単位を修得しなければなりません。ここでは、その概要を説明します。

教員免許を取得するために必要な科目は、大きく分けて4つに分かれます。

まず一つめは「施行規則66条の6に定める科目（省令科目）」と呼ばれるもので、免許の学校種・教科種に関わらず、修得しなければいけない科目です。免許法では4つに区分されており、「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」となります。これに対応する科目が、共通科目や文化総合学科の科目として配置されています。

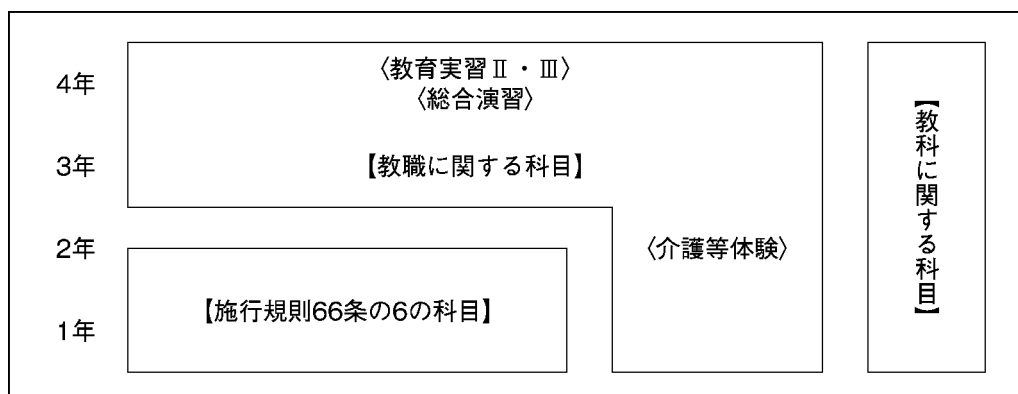
続いて「教科に関する科目」と呼ばれるもので、国語の教員になりたいければ国語の内容を学ばなければなりません。すなわち、学校種・教科種によってそれぞれ違いがあり、本学では各学科の「専門科目」の中に含まれています。

さらに「教職に関する科目」と呼ばれるものもあります。これも学校種・教科種によって若干の違いがあります。「教育とはどういうものか」「学校とはどういうものか」「児童生徒の心理はどういうものか」といった理論的な内容から、授業をどのように行えばよいかという「教科教育法」「道徳教育」、さらに、実際の学校で自らが授業を行う「教育実習」などの様々な授業があります。最終的に、教職の総仕上げとして4年次に、実際の学校で実践をする教育実習を行うことになります。

最後に「教科又は教職に関する科目」と呼ばれるものです。これは「教科に関する科目」と「教職に関する科目」と合わせたものとともに、「介護等体験」という科目が入ります。

これら4種の科目を、1年次から4年次までに少しずつ積み上げて修得していく必要があるのです。それを図示したのが、図1となります。

【図1 教職課程 受講の流れ①】



## 2 文学部の「教職に関する科目」履修の流れ

それでは具体的に、文学部の「教職に関する科目」の1年次から4年次までの開設の配置状況を見てみます。これは、学生が履修していく流れ（モデル）ともなっています。

### （1年次）

前期の「教師論」が入門科目として配置されています。「教師とは」ということを中心に学びます。後期には「教育方法論」「教育課程研究」があり、「学校で教えるとは」「カリキュラムとは何か」といった点について大まかに学びます。

### （2年次）

「教育原理」「教育制度論」「教育心理学Ⅰ・Ⅱ」といった理論系の科目が配置されています。1年次よりも学問的に教育について考察します。また一方で、いくつかの教科（国語・社会）について教科教育法が置かれており、教科の意義や位置づけ、その教育方法について学びます。中学校免許取得希望者は「介護等体験」を実施します。

### （3年次）

学校現場における、いわゆる「領域」にあたる「道德教育」「特別活動」や、具体的な教育指導に関する「生徒指導」「教育相談」といった科目を学びます。いくつかの教科（英語、書道、地歴、公民）については、教科教育法が置かれています。また、教育実習事前指導に当たる「教育実習ⅠA・B」が前後期に配置されています。

### （4年次）

「総合演習」が前期に配置されています。人類に関する又は我が国社会全体にかかわる課題についての分析および検討を行って、ゼミ形式で発表を行います。さらにこれらの課題を生徒に指導するための方法および技術を学ぶことを通して、教職に関する総合的な力を身に付けます。教職の総仕上げとして、本実習として「教育実習Ⅱ・Ⅲ」を行い、その後で総括を行います。

以上をまとめると次のような図2となります。

【図2 教職課程 受講の流れ②】※ 2009年度以前入学生

学年	開講時期	開講科目	
4年	後期	教育実習Ⅱ・Ⅲ	
	前期	総合演習	
3年	後期	教育相談	道德教育
	前期	特別活動	生徒指導
2年	後期	教育制度論	教育心理学Ⅱ
	前期	教育原理	教育心理学Ⅰ
1年	後期	教育課程研究	教育方法論
	前期	教師論	

## 3 卒業要件との関係

「教職に関する科目」および「教科又は教職に関する科目」のうちの「介護等体験」は、免許状取得のために開設されている科目のため、本来は卒業要件とは関係ありません。しかし、各学科には「自由選択単位」がありますので、以下の指定された科目のうち、8単位までは卒業要件単位に算入できます。

卒業要件として算入できる単位は、以下の科目のうち、8単位までです。

教師論	書道科教育法Ⅱ
教育原理	社会科系教育法Ⅰ
教育心理学	社会科系教育法Ⅱ
教育心理学Ⅱ	地歴科教育法
教育制度論	公民科教育法
教育課程研究	道徳教育
英語科教育法Ⅰ	特別活動
英語科教育法Ⅱ	教育方法論
国語科教育法	生徒指導
書道科教育法Ⅰ	教育相談

※ 総合演習、教育実習ⅠA、ⅠB、Ⅱ、Ⅲ、介護等体験は認められない。

## 2. 図書館情報学課程

本学図書館情報学課程は、図書館の専門的業務に従事する「司書」または「司書教諭」となる資格を取得するのに必要な単位を修得するために開設された課程です。

### 〈司書に関する科目について〉

#### 1. 資格の取得

司書に関する授業科目 23 単位以上を履修した学生には卒業時に図書館情報学課程の修了書が授与されます。

#### 2. 授業科目

- ・授業科目は、必修科目と選択科目に分かれています。
- ・必修科目はすべて履修しなければなりません。
- ・選択科目は「図書及び図書館史」「資料特論」「情報機器論」「コミュニケーション論」のうち二分野から各 1 科目を履修しなければなりません。

#### 3. 選択科目の読み替え科目について

学部、学科の専門科目で学ぶ知識を司書業務でも活用できるようにすること、また、履修単位の負担を軽減することを目的としています。(読み替え科目については、学生便覧に記載された図書館情報学課程の説明を参照してください。)

- ・学科科目のうち(1)情報機器に関するもの、(2)資料や出版や流通を扱うもの、(3)コミュニケーションに関わるものという図書館情報学課程科目の内容にふさわしいものが読み替えられています。
- ・読み替え科目は、他学部（場合によっては他学科）の学生は履修できないものもありますので注意してください。
- ・読み替え科目は、図書館情報学課程の単位としても、また学科科目の単位としてもカウントされます。

#### 4. 単位を取り残した場合

この課程の履修資格は本学在学中に限ります。したがって卒業時に本課程の単位を修了できなかった者は履修資格を失いますので注意してください。留年者で本課程を修了していない者は履修継続可能です。

### 〈司書教諭に関する科目について〉

#### 1. 資格の取得

司書教諭に関する授業科目 10 単位以上を履修した学生には卒業時に図書館情報学課程の修了書が授与されます。

#### 2. 授業科目

- ・授業科目は、必修科目と履修可能な司書に関する科目に分かれています。
- ・必修科目はすべて履修しなければなりません。
- ・履修可能な司書に関する科目は「図書及び図書館史」「資料特論」「情報資料論 II」となっており、履修

しなくても司書教諭となる資格は取得できますが、図書館に関する幅広い知識を得ることができます。

### 3. 単位を取り残した場合

この課程の履修資格は本学在学中に限ります。したがって卒業時に本課程の単位を修了できなかった者は履修資格を失いますので注意してください。留年者で本課程を修了していない者は履修継続可能です。

### 3. 日本語教員養成課程

文学部日本語教員養成課程は、日本語を母語としない人たちに対して日本語を教えるために必要とされる内容の科目における単位修得をめざす課程です。

#### 1. 修了書

日本語教員養成に関する授業科目 34 単位以上（必修 14 単位、選択必修 20 単位以上）を履修した学生には卒業時に日本語教員養成課程の修了書が授与されます。

#### 2. 授業科目

- ・授業科目は、必修科目と選択科目に分かれています。
- ・必修科目はすべて履修しなければなりません。
- ・必修科目の日本語教授法Ⅰを履修しなければ、日本語教授法Ⅱ、ⅢおよびⅣは履修できません。
- ・選択科目は、5つにわけられた区分にある科目群から、指定された単位数を履修しなければなりません。

#### 3. 選択科目の読み替え科目について

課程独自の科目を履修することが望ましいが、履修単位の負担を軽減するために、読み替え科目を設置しています。（読み替え科目については、学生便覧に記載された日本語教員養成課程の説明を参照してください。）

- ・学科科目のうち「日本語の構造に関する体系的・具体的知識」、「日本人の言語生活に関する知識・能力」、「日本事情」、「言語学的知識・能力」に設置されているものは、日本語教員養成課程の内容にふさわしいと考えられるものが読み替えられています。
- ・読み替え科目は基本的に学科科目ですので、場合によって他学科の学生は履修できないものもありますので、ご注意ください。
- ・読み替え科目は、日本語教員養成課程の単位としても、また学科科目の単位としてもカウントされます。